

人のためになる行動をしよう

from 新栄小学校

今年の前期児童会の目標は、「人のためになる行動をしよう」です。自分たちができることは何かを考えながら、次のような活動に取り組みました。

△校区クリーン活動△

六月二十五日(木)、日頃お世話になっている通学団の集合場所などの草取りやゴミ拾いを行いました。

子ども達は、汗をかきかき一生懸命取り組みました。どんどんゴミ袋がいっぱいになっていきました。「草をぬくと、神社がちよっとすっきりして、わたしの心もすっきりした」「みんなのためになっとうれしい」と、充実した活動となりました。



△福祉実践教室△
豊山町社会福祉協議会のご協力を得て、六月三十日(火)に福祉実践教室を行いました。

講師の先生から「私たち障がい者の願い」と題したお話を伺った後、四年生はガイドヘルプ、五年生は手話、六年生は車椅子の体験をしました。



体験を通して、だれもが住みやすい社会をつくるために自分たちができることを考えました。

△ネパール地震救援募金△

七月十三日(月)・十四日(火)、今年四月に起きた地震で、甚大な被害を受けたネパールの子ども達のために、募金活動を行いました。

集まったお金は、青少年赤十字社を通して、ネパールに生活用品や医薬品を届けるのに役立てられます。

自分を取り巻く「人・もの・こと」に目を向けて、自分のできることをしようとする児童の育成を図っていきたいと思います。

第百八十一話

ウナギ釣り「ながの」

以前、ウナギの漁法「穴釣り」を紹介しましたが、ほかにも「ながの」という方法がありました。

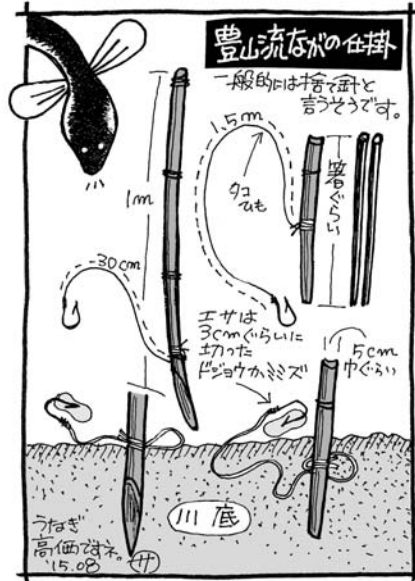
釣りの仕掛けは、二種類作ります。ひとつは長さが箸くらいで幅が一・五センチくらいの竹の片方の端に長さ一・五メートルくらいの風糸を縛り、糸の先に釣針を付けた仕掛けです。

もうひとつは長さが一メートルくらいの竹の一方の端を尖らせて、そこから十五センチ位離れたところに三十センチ位の長さの風糸をしぼり、その先に釣針をつけたものです。餌には、中型のドジョウを三センチくらいに切ったものか、だいいくミミズを付けます。

短い竹の仕掛けは糸が長いので、餌をつけた釣針が川の底の泥の上に乗っているような状態にするため、釣り針から十五センチくらいの糸を川底に竹で押し込んで隠しておきます。

長い竹の仕掛けは、そのまま先の尖った方を川底に突き刺しておけば、短い仕掛けと同じような状態になります。

この仕掛けを二十〜五十本くらい作った



ておき、夕方にウナギのいそうな川へ仕掛けておきます。そして仕掛けを見失わないように目印を置いて、翌朝仕掛けを上げに行きます。

夜から夜明けにかけてウナギが川底の餌に食いつきます。収穫はしかけた場所、天候、水の流れなどいろいろな条件で違っていましたが、運が良い時は三十本仕掛けて十本くらいはかかっていることもありました。

古老はこのやり方を「ながの」という言い方で教えられたそうですが、大人になってからよその人から「捨て針」と呼ぶのが正しいと言われました。「ながの」という言い方は豊山独特の言い方だったようです。

今は昔の物語です。
(豊山町文化財研究会の郷土文集を参考にしました)

